

1. 評価結果概要表

平成 20年 5 月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	0171000326		
法人名	有限会社 アフターケア		
事業所名	グループホームペチカの家		
所在地	〒069-0813	江別市野幌町18番地3 (電話) 011-382-3319	
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002	北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階	
訪問調査日	平成20年4月23日	評価確定日	平成20年5月30日

【情報提供票より】(平成20年3月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 13 年 9 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	1人, 非常勤 7人, 常勤換算 3.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 1～2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円		
その他の経費(月額)	有	無	
敷金	有	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,470 円

(4) 利用者の概要(4月23日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名	
要介護1	0名	要介護2	3名			
要介護3	4名	要介護4	1名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	83歳	最低	79歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	江別私立病院 平賀内科クリニック 野幌病院 野幌たちばな歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、JR野幌駅の近くにある一軒家を改造した建物である。各居室が吹き抜けのあるリビングに開かれ、家庭的な雰囲気の中でゆったりと生活されている。広いスペースの居室は、家族や友人との面談や宿泊などの交流に活用されている。看護師である管理者は、健康管理に万全を尽くしたケアを行っている。また、主治医との密な連携により、持病を持つ利用者も常に安定した経過である。町内行事参加、婦人会の事業所訪問によるお茶会、中学生の見学体験実習など地元の人々との交流が積極的に行われている。全職員が利用者一人ひとりの思いを大切に汲み取り、健康で安全に、安心した生活ができるようなサービス提供を目指して取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題であったパンフレットはわかりやすくなっている。玄関に掲示した理念に関しては、地域密着型サービス事業所としての目指すあり方について話し合い、理念の文言に追加されることが望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価をケアの見直しの機会と位置づけ、職員と協議の場を設定し、改善点を確認し、その実施に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成18年4月より運営推進会議を開催し、活動に対する意見や要望など協議している。参加者は町内会長、協力医、利用者及び家族代表、包括支援センター職員などである。それぞれの参加者の事情の違いから時間帯の設定が難しく招集に苦慮しているが、引き続き努力され、利用者や家族の要望を事業所運営に反映される事や、地域の認知症ケアの拠点としての機能を充実されることを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書には苦情相談窓口として事業所の担当者・江別市・北海道国民健康保険団体連合会が書かれている。玄関に苦情や要望を入れるポストを設置し、表出された苦情は、カンファレンスで検討することが明示され、入居時に説明している。入居後は家族が訪問した際に要望を伺うなど、意見、苦情が言いやすい機会をつくっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	イベントや草刈りなどの町内環境整備への参加や町内会の会議に事業所の会議室を開放したり、また町内の方から頂いた野菜を利用者と一緒に漬物にして配ったり、ボランティアや体験見学実習の受け入れなど、地元の人々と積極的に交流を深めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念は職員全員の話し合いで決められ、事業所独自の理念を作り上げている。入居者との関わりの中で、どのような事業所作りを目指すかが、平易な言葉で表現されており、玄関に掲示され職員に浸透している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常業務の中で理念である「人格を尊重し、個別のケアに勤めます」をモットーに一人ひとりの個性を把握し、ケアを実践するために管理者を中心に話し合いを行い取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	イベントや草取りなどの町内環境整備への参加や、町内会の会議に事業所の会議室を開放したり、また町内の方から頂いた野菜などを利用者と一緒に漬物にして配るなど、地元の人々との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をケアの見直しの機会と位置づけ、職員と協議の場を設定し改善点を確認している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年4月より運営推進会議を開催し、活動に対する意見や要望などを協議している。メンバーは町内会長、協力医、利用者及び家族代表、包括支援センター職員などである。2回の実施録がある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政が主催する研修会には職員を積極的に参加させている。また、地域の方々に「認知症のケア」について普及啓発する役割を認識しており、ボランティアや中学生の体験見学実習など受け入れている。今後、地域貢献の要請があった場合は受け入れる体制が出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や利用者の容態に変化が生じた際の連絡時や、ケアプラン作成時などに、意見や希望を伺っている。また、定期的に発行する「ペチカだより」ではイベント時の写真などを添えて、利用者の暮らしぶりを伝えている。訪問が困難な家族には電話をするなど、きめ細かな報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に気軽に意見や希望、提案が出せるような雰囲気職員が接している。また、玄関には意見箱を設置し家族や訪問者が意見、苦情が表し易い体制づくりが出来ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常日頃より管理者が中心となり、健康で安全・安心した生活が出来るようなケアを提供するために、常に最新の情報を共有するように職員に周知徹底している。また、新しい職員が入った場合は馴染みの職員と組み合わせたり、夜勤に入る時期を調整している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員のやる気と能力を評価し、スキルアップのための研修情報を提供している。常に、職員のレベルに応じた自己選択ができる研修計画を取り入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業の他事業所へ職員を研修に出したり、他事業所職員の研修を受け入れるなど積極的に交流し、その成果を日々のケアに取り入れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時は家族と相談し、使い慣れた家具、自分で制作した作品などの馴染みのものが持ち込まれている。利用者が環境に慣れるまで、家族も共に過ごせる様に、宿泊できるスペースを確保するなど、家族も含めて対応が出来るように工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の後片付けや掃除などを一緒に行い、日中の趣味の時間に絵を描く役割を持つなど、利用者の得意分野や能力を活かす場面を意識的に設け、工夫し配慮している。同時に「ありがとう」の感謝の言葉かけを行い、利用者や職員が打ち解けた雰囲気の中で生活の場を共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを汲み取れるように、落ち着いた場所で、穏やかに時間をかけて会話するようにし、利用者の気持ちの把握に努め日常のケアに活かしている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心になって介護計画を作成し、サービス担当者会議で合意を得ている。利用開始時には家族から生活歴、日々の暮らし方を伺い、また、家族の要望も拝聴している。職員は常に情報を共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日頃の介護を通して利用者の気持ちを把握し、家族の要望を取り入れている。また、対応出来ない状況の変化が生じた場合、随時家族や関係者と話し合い介護計画の見直しを実施している。カンファレンスは毎月1回、モニタリングは6ヶ月～1年で実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院介助やその送迎などの支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職員が2名在籍し、治療状況を把握し、健康管理を行っている。主治医と連携した療養環境の整備や栄養の取り方など、利用者の疾病に応じた対応をしている。また、入院が必要な場合は協力医の紹介の基に治療に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族やかかりつけ医と連携し、重度化や終末期に向けた方針を共有出来るように繰り返し話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員に対して、利用者は人生の先輩として礼節をわきまえた言葉かけをするように常に指導している。一人ひとりの尊厳を大切に関わると共に、他の入居者との関係性にも配慮し、事業所全体が静かで落ち着いた雰囲気である。記録類の保管には個人情報への配慮がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、排泄、入浴なども体調や希望に沿って、一人ひとりのペースに合わせて行うなどの配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、楽しみ事の中で一番であると最重視している。旬の食材を用い、栄養のバランスを考え、利用者の希望を取り入れ、季節感のある献立を作っている。誕生日には好みを伺い、メニュー、器、盛り付けなど工夫し、特別な日となるように支援している。職員は利用者と会話を楽しみながら和やかに食事をしている。また、後片づけ、食器拭きなど利用者も役割として手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の介助、見守りのもと、一人浴でリラックスして頂けるよう、個々の好みの温度や時間を配慮している。利用者の介護度に応じて2人体制で介助している。利用者の身体機能に合わせた福祉用具を用いて、安心して入浴ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが得意分野での役割や楽しみごととして、調理や、食後の後片付けなど、場面を作り出す働きかけをしている。また、気分転換に理美容室への外出や外食、日帰り温泉、年1回の温泉宿泊など気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調を最優先に考え、散歩、買い物、理美容室へと希望に沿った外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が連携して見守りを行い、日中は玄関の鍵をかけていない。万が一の時に備えてSOSネットワークが活用出来る様にし、個人の服装や特徴を把握している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、連絡網を目の付く場所に掲示し、防災訓練を実施している。	○	新しい職員に、緊急時の対応が確実に出来るように、訓練が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事と水分の摂取状況の経緯がわかり易く記入されており、体重が増加傾向にある方や持病がある方にはカロリー摂取量を配慮して対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはソファが置かれ、利用者が集って和やかに談笑し、ゆったり過ごされている。壁には利用者が共同制作した季節にちなんだ作品や行事の写真などが貼られ生活感や季節感が取り入れられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族と相談して、自宅で使い慣れた家具や仏壇などを置き、家庭的な雰囲気生活している。		

※  は、重点項目。